ZOOM UP!

わたなべ・じゅんや／秋田市生まれ　秋田大学卒。地元金融機関退職後、シンガー・ソングライターとして活動。代表曲「ちんあなごのうた」「秋田HATA☆HATA☆ROCK&SAMBA!!」 2014年国民文化祭あきた2014のテーマソング「僕たちの未来」歌唱を担当。現在、秋田市河辺の自然豊かなアトリエに暮らしながら、音源制作やライブ活動を行っている。

きっかけはチンアナゴ

渡部 絢也（平成15卒）

驚くだろうか？　もしも「チンアナゴで人生が変わった」と言う人間がいるとしたら。何を隠そう、私がチンアナゴと出会ったことで人生が変わったその人である。

私は今シンガー・ソングライターとして活動をしている。大学卒業後、金融機関で3年勤めてから退職。それから音楽で身を立てている。会社員としての安定を捨てることは勇気のいることだったし、実際のところ、勝算があったわけではない。それでも「俺は音楽で生活できる気がする」という、全く根拠のない自信と使命感が、周りの人たちの反対を押し切ることになった。

音楽は中学3年生の時から始めた。プロとして歌を歌うことをずっと夢見てきた。得意なのは、自分の声質を生かしたバラードだ。いつか大舞台で多くの観客の涙を誘うようなステージを……。しかし話はそんなにうまくいくわけもなく、独立後は引きこもり、ひたすら曲を制作する日々であった。転機は独立半年後、久々に足を延ばした男鹿水族館で出会ったチンアナゴである。

砂の中から頭を出してプランクトンをついばむ姿は、思わず吹き出すほどユニークだった。こんな生き物がいるなんて……！　早速自宅に戻り、半ば即興のようにして作った曲が、現在では動画共有サイトでシリーズ合計100万再生を超える「ちんあなごのうた」だ。この動画はテレビや水族館などで話題となり、さまざまなイベント出演を得る機会となった。

今では、全国の幼稚園・保育園の子どもたちへ歌を届ける活動をしている。大舞台で大人向けにバラードを歌って涙を誘うはずが、今では子どもたちに「ちん♪ちん♪」と楽しく歌を届ける日々である。人は全く思い描いていなかった未来に立つこともあるのだなぁ。

話は変わるが、高校3年生の時、学校祭のテーマソングに応募したことがある。なんと見事に、落選した！それを反骨心にして、私はPCを使った作曲活動を本格化させ、今では作曲や編曲依頼を引き受けている。何がきっかけで人生が変わるか、本当に分からない。

最後に今後のことを。私は今後、子どもたちも大人も、歌に触れてくださる全ての人が笑顔になるような歌を届けていく。本文を読んでくださったあなたにお会いできる日を、心から楽しみにしています。

芸で街を彩る

染 龍（平成20卒）

花柳界と聞くと、まず京都の舞妓はんを連想される方が多いのではないでしょうか。しかし、私にとっての花柳界とは歌舞伎に登場する仇吉・米八や小萬、また、幸田文原作で成瀬巳喜男監督の「流れる」に描かれたような、江戸東京の芸者衆の印象が強くありましたので、東京の花街の門を叩くのに躊躇はありませんでした。当時は十代でしたので半玉（舞妓）を勧められましたが、子供役の半玉よりも花柳界の主役である芸者を希望し、最初から一本（芸者）で出してもらいました。

東京の花柳界では、吉原遊郭発祥の曲目であったり、祭礼の際の手古舞という男装束であったり、正月には芸者衆自らが腹掛姿で獅子頭を振ったりと、京都の舞妓はんブランドには一切頼らず花の東京の芸者衆たることに高いプライドと意気地を持って旦那衆に愛されていました。こうした姿勢は東京と京都に限った話ではなく、全国各地に点在する花街が、それぞれの威信を賭けて土地の芸を守っています。

秋田川反花柳界も例に漏れず、かつては東北一の大歓楽街であった川反の芸者衆として高い格式を誇り、全国までその名を聞こえさせていたことは誇張ではありません。私たち現在の川反芸者衆も土地の芸である「酒の秋田」、川反調「秋田音頭」、そして川反調「岡本新内」を身につけるべく日夜稽古に励んでいます。私たちは往年の川反プライドの継承者として、京都の真似でも東京の真似でもなく秋田独自の文化を大切にしていますし、またそうでなければ県外の花柳界と対等に渡り合えないのではないでしょうか。

雪の川反を芸者衆が角巻を巻いてお座敷に向かう様子や鷹揚な秋田弁でお相手をつとめる様子はノスタルジックな情緒があり、県外の方の目にも風情を持って映るはずです。

花柳界そのものが縁遠い分、根強い舞妓はんイメージを払拭することは大変難儀ではありますが、土地を大事にすることに未来があり、故郷秋田にも寄与することができると思っています。

そめりゅう／男鹿市出身。秋田高校卒業後上京、墨田区向島にて五朗（ごろう）の芸名で芸妓となる。西川流日本舞踊、望月流囃子、その他小唄・端唄等を修行。平成28年台湾・台北市にて語学留学後、29年末に秋田へ帰京し、秋田市に芸妓置屋寿美谷（すみたに）を構え、染龍（そめりゅう）の芸名で再び妓籍に入る。